



強みと連携を生かした県内企業への支援をめざして

所 長 新村 孝善

4月1日付けで工業技術センター所長を拝命いたしました。よろしくお願いいたします。

当センターは、工業技術センターとなって（昭和62年設立）29年目を迎えています。これまで諸先輩方が培ってきた歴史と伝統を考えますと、所長の重責を感じているところです。県内企業からの期待や信頼に応えるセンターとなるよう、運営したいと存じます。そのために、主な取り組み内容について以下に示します。

1 中期業務計画の確実な推進

当センター中期業務計画は、平成28年度までの技術支援と研究開発の業務の方向性を示しており、これまで、着実に実施してきております。今年度も引き続き、「企業活動の支援」を業務の柱と位置付け、当センター利用者の満足度向上などに取り組んで参ります。また、次の点に重点を置いて進めて行く方針です。

(1) 利用企業の裾野拡大

本県には製造業事業所が5,000社程あります。これらの企業に当センターを利用させていただくことが使命と捉えています。そのためには、企業訪問等を積極的に行い、当センター利用のメリットを丁寧に説明して企業ニーズを掘り起こし、利用企業の裾野を広げます。

(2) 強みを生かした支援と新規分野への挑戦

当センターは発酵、化学分析、加圧熱水処理、鍛造、精密加工、溶接・局所加熱、静電気・ノイズ関連、シラス加工、木材乾燥・構造・性能評価、レーザ加工等の保有技術が強みです。

これらの保有技術を生かしながら、県内企業のニーズ解決や実用化に対応するとともに、新規分野への挑戦を図ります。

2 企業や関連機関等との共同研究や連携の推進

企業ニーズ解決や実用化のためには、当センターの保有技術のほかに、企業や大学、他の機関

との共同研究や連携がきわめて重要となります。

(1) 企業等との共同・受託研究

県内企業をはじめ、昨年度27件の共同・受託研究を実施しました。今年度も積極的に共同研究を進めて参ります。

(2) 公設試や大学等との共同研究や連携

他の公設試との共同研究や連携を推進します。具体的には、神奈川県産業技術センター、宮崎県工業技術センター、九州・沖縄地域連携が動いております。一方、県内では、大隅加工技術研究センターなど他の試験機関との共同研究に向けた取り組みも始まっています。

さらに、鹿児島大学や大阪大学、東京大学、鹿児島高等等と共同研究を実施していきます。

(3) 支援機関等との連携

かごしま産業支援センター、工業倶楽部、錦江湾テクノパーククラブ、各業界団体等との連携を進め、企業支援に生かします。

3 今後への展開に向けた検討

(1) 「デジタルものづくり」への対応

経済・産業のグローバル化が進み、米国のIndustrial InternetやドイツのIndustrie 4.0が第4次産業革命をもたらすと言われております。そのような「デジタルものづくり」への対応として国内動向も注視しつつ、当センターのあるべき姿や方向性を検証します。

(2) 新たな業務計画への作成

平成28年3月のかごしま製造業振興指針の改訂を踏まえ、平成28年度末を目途に第2期中期業務計画の策定に取り組めます。

県内企業のニーズや時代の要請を的確に捉え、地域のイノベーションを創出する「技術的掘りどころ」を目指して、今後とも職員一同が真摯さをもって取り組んで参ります。皆様からの一層の御協力・御支援をお願い申し上げます。

